

洗足学園中学高等学校 78 回生 (2021 年度中学 2 年生) 学年通信 Vol.16 (2021 年 10 月 25 日発行)

🦋 第 74 回彩羽祭

去る 9 月 26 日(日)・27 日(月)に、本校の文化祭である彩羽祭を開催しました。中学 2 年生は例年、「ボランティア」についての展示を行っていますが、今年も各クラスから集まった HR 計画委員が中心となって企画を進め、学年全員で協力して調査を行い、その成果をポスター形式にまとめて発表しました。HR 計画委員が話し合って決めたタイトルは「パンジーの湖」。小さなことからでも少しずつボランティアに参加していきたいという思いを、「つつましい幸せ」が花言葉である黄色のパンジーに重ね、澄んだ水をたたえる大きな湖のように広く豊かな心を持って社会に貢献したいという願いを込めています。2 回目となった文化祭で、生徒たちは昨年とは異なった視点を持ち、新たな気づきを数多く得たようです。ここでは、4 名の生徒の感想をご紹介します。

【Y・K さん】

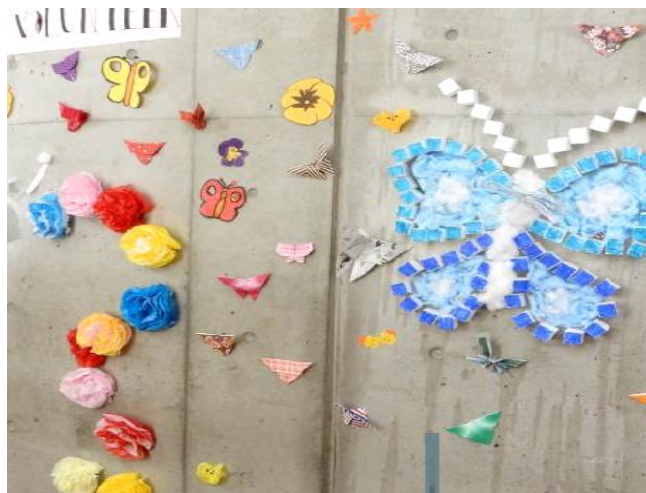
ふと手帳をめくっていくと、4 月の半ば頃に、「第 1 回文化祭実行委員」と書かれていたのが目にとまりました。本格的に準備がスタートしたのは 5 月の中間試験が終わってからでしたが、こんなに長い間、今回の文化祭に向けて準備していたのかと思うと、とても不思議な気持ちになりました。

1 学期のある日の放課後、理科実験室に中 2 HR 計画委員が集まりました。中 2 HR 計画委員内での役職決めをするためです。その時、河崎先生が言っていた言葉が今も頭の中で響いています。

「リーダーが頑張るのは当たり前。副リーダーの頑張りや、物事が成功するかどうかに大きく影響する。」

それを聞いて私は、「自分を試してみたい」と強気になり、副リーダーに挙手したのでした。

それからは、企画書の提出でテーマや内容を決めたり、予算を考えたりと、盛りだくさんでした。はじめの方はミーティングを開いているいろいろ決めていたのですが、なかなか上手くいかず、朝早くの登校も苦痛になって、いつしかミーティングを行わなくなってしまいました。



教室外の壁面の装飾

発泡スチロールで大きな蝶をつくりました。発泡スチロールを使ったことで、普段はごみになるものでも工夫して他のものを作り出せることを伝えられたと思います。また、折り紙でたくさんの蝶をつかったのですが、その際に、折り方を全員であえて統一しなかったことで多様性を意識しました。

(A・A さん)

9月になって文化祭が近づくとつれて、今までの「あら」がどんどん出てきました。1学期に提出した書類を少し適当に書いてしまったからです。何度も先生に計画の甘さを指摘されていたのですが、本格的に学年準備が始まるまで、私はそのことをあまり実感していませんでした。自分のせいで模造紙原稿提出までに1日しか原稿を書く時間をとれなかったり、装飾で生徒や先生のをいろいろ使わせてしまったりと、みんながあたふたしていたのはすごく申し訳なかったです。計画の甘さは今回の2番目の反省点だったと思います。

1番の反省点は、HR計画委員内での話し合いをうまく進められなかったことです。はじめの方はみんなの意見も聞くことができていると思うのですが、言い合いっぽくなるのが怖くなってしまい、途中からは少し避け気味になっていたような気がします。9月にはまたみんなの意見をたくさん聞くように意識し始めるようになりました(これも先生のアドバイスを聞いたのがきっかけでした)。相変わらずもめました、みんなの熱意に驚いたり、感動したりと、学ぶことは盛りだくさんでした。同時に、今まで自分は結構独りよがりだったのだなと実感しました。

私にとって思い出の文化祭になりました。

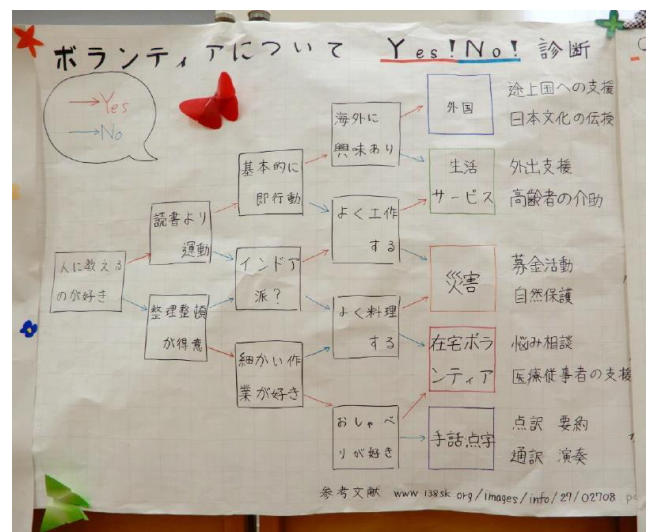
【Y・Mさん】

私は去年とは全く違う彩羽祭を体験しました。去年はSDGsや1・2学期に学んだことを模造紙にまとめて発表しました。今年もボランティアについて発表すると聞いて、去年と同じ感じなのかなと思っていたのですが、去年とは違った文化祭になりました。私は新たな5つの経験をしました。

1つ目は模造紙の構成、書き方です。去年は文章が収まらず、文字数を縮めることだけを考慮して模造紙を書きました。そのため、模造紙に収まったものの、ひとつひとつの文がとて長くなってしまいました。今年も文章が収まらず縮めるのが大変でしたが、文章を縮めるだけではなく、模造紙を見に来たお客さんからの見えやすさも考慮して、箇条書きにしたり、色を変えたり、写真を付け足したりと様々な工夫をしました。終わったときに友達から「見やすい！」と言われてとても嬉しかったです。

2つ目はボランティアに対する意識の変化です。文化祭の準備を始める前から、「謙愛」の授業でボランティアについて考えてきましたが、私はボランティアとは災害など目に見える被害に対するお手伝いだと思っていました。今回、文化祭の準備でボランティアについて考えたとき、目に見える被害のお手伝いだけではなく、交流や観光など私にもできるものがあって、とても驚きました。私が初めて知ったボランティアも多く、私が知らないボランティアもまだまだたくさんあると思うので、もっと知りたいと思いました。ボランティアとは私達が思っている以上に助けとなるものだと感じました。また、ボランティア活動に参加するにあたって、自発的な意志と責任をもって行うことが大切だと思いました。今までは、どこかの地域で被害を受けている様子をニュースで見ても、「誰かがボランティアしてくれる」と勝手に思っていました、私達が少しでもできる範囲でボランティアをしなければいけないと思いました。

3つ目は当日のシフトです。私は受付を行い、お客さんに消毒とQRコードの読み取りをお願いしました。私がシフトに入っている間に来てくださったお客さんが模造紙を読んでくれてとても嬉しかったです。去年はまだ部活



ボランティア診断

Yes No が単純すぎると面白くないので、順番を入れ替えるなど、すぐ結果がわからないようにするところを一番こだわりました。(R・Iさん)

誰も傷つけない質問にするのと、辿っていったときに矛盾が生じないように工夫して取り組んだ。(A・Kさん)

3つ目は当日のシフトです。私は受付を行い、お客さんに消毒とQRコードの読み取りをお願いしました。私がシフトに入っている間に来てくださったお客さんが模造紙を読んでくれてとても嬉しかったです。去年はまだ部活

に入っておらず、先輩という存在をあまり意識していなかったのですが、今回は部活の先輩も来てくださり、一緒に写真を撮っていただくなど、去年とは違う経験をすることができました。

4つ目は来年からクラスごとに展示を行うということについてです。去年は初めての洗足生としての文化祭で、圧倒的な印象を受けた先輩方の教室を回ることが楽しかったのですが、今回は先輩方の装飾やゲームの内容、接客などにも注目して文化祭を楽しみました。どの教室も引き込まれる装飾を作っており、来年は私達も引き込まれるような装飾を作りたいと思いました。また、予算やアイデアなど全部自分たちで作ったと考え、先輩方はすごいなと思いました。接客も優しく声をかけてくださり、私もそのような先輩になりたいと感じました。来年は初めての自分たちで考えてクラスごとに行う展示ですが、今回の文化祭を通してとても楽しみになりました。

5つ目は実行委員、HR計画委員の存在です。HR計画委員が教室で仕切っているのを見て、私達が知らないところで中2の展示を考えてくれていると感じ、改めてスゴイと感じました。実行委員の方々も、私たちが準備する前からいろいろと考えてくださっており、改めて私達の文化祭は様々な人が支えて成り立っているものだと感じました。また、文化祭ができていることを当たり前と考えずに、文化祭ができたことに感謝したいと思いました。

来年は初めてのクラスごとの展示で不安もありますが、去年と今年の文化祭を生かして、楽しいと思われる文化祭を作りたいです。来年も新たな彩羽祭を経験できることを楽しみにしています。



ホワイトボードの装飾

友達と協力してホワイトボードの装飾をしました。全体図を考えたり、文字はどのようにするか、テーマにそったお花や湖のようなものをどこに入れるかなどを決めてから作ることができました。私は、いくつかに分けたうちのひとつの、文字の部分を担当しました。私が「J2 VOLUNTEER」という文字を作る上でこだわった点があります。ひとつは色の使い方です。まず、ボランティアということで平和や優しい雰囲気がある色にしようと考えて緑、黄色、オレンジの色にしました。一つの色に絞るとつまらないと思ったので少し色を変えてみたりしました。他にも、文字の中に顔をつけたところも、友達とアイデアを出してこだわったところです。また、遠くから見たときにも見えやすいようにと、絵の具を使って文字を書きました。折り紙の蝶などをつける時も、左右の角度を相談したり、パンジーを貼る場所を相談したりして決めました。作ることができる時間は多くはなかったけれど、協力して作ることができたので良かったです。(R・Tさん)

【H・Kさん】

今日はずっと楽しみにしていた文化祭でした。限られた時間内での準備でしたが、納得のいく展示を作ることができたと思います。

私は点字ゲームの係でしたが、ゲームを考える際、お客さんに点字に興味を持ってもらえるようなものにしたいと思いました。駅の手摺や食品の容器などでよく目にする点字ですが、私達にとって割と身近な



ものであるにも関わらず、点字について詳しく知っている人は少ないように感じたからです。そこで、私達は実際に点字を手で触って読むような体験をしてもらえたらと思い、点字当てゲームを思いつきました。一番大変だったのは、点字を触って読んでもらうこのゲームで、新型コロナウイルスへの感染対策を考えることでした。点字の作り方を調べてみると、紙で作るものやレゴブロックを使ったものがありました。紙では消毒ができないし、レゴブロックを用意するのも難しそうでした。そこで思いついたのがラインストーンです。ラインストーンをファイルに貼れば、消毒が可能だし、使い回しもできるので、出るゴミを減らすこともできます。また、もう一つ工夫したのはゲームの面白さです。ゲームに興味を持ってもらうために、ランキングをつけることにしました。順位が上の人の名前をホワイトボードに記載することで、モチベーションがアップするのではないかと思います。文化祭当日、ゲームをしてきている人が多くいて、嬉しかったです。



ただ、改善点もあったと思います。まず、ゲームのルールがシフトの全員に正確に伝わっていなかったことです。模造紙に書かれたゲームの情報が少なく、混乱を生んでしまいました。また、順位が上の人の名前をホワイトボードに記載するときに、最初はお客さん一人につき、記録をいくつも書いていたのですが、それだとどんどん順位が変わっていってしまうので、途中からお客さん一人一人の最高記録で順位をつけることにしました。今回の反省を次に活かせたらと思います。

文化祭は2日間とも一日中、校内を歩き回って、友達と「足が疲れた～」と言いながら帰りました。なんだか普通の授業日より疲れた気がします。来年の文化祭も楽しみです。

文化祭は2日間とも一日中、校内を歩き回って、友達と「足が疲れた～」と言いながら帰りました。なんだか普通の授業日より疲れた気がします。来年の文化祭も楽しみです。

【K・I さん】

今日は彩羽祭がありました。私にとって2回目の彩羽祭で、新体操部に入部してから初めての文化祭でした。新体操部は毎年、文化祭で集団演技などを公演で発表しています。今年は私も参加させていただき、とても嬉しかったです。



新体操部の公演に向けての練習は、5月の末から始まりました。そこから毎日練習をしました。少しずつ上達することができ、とても嬉しかったのですが、夏休みに部活動をするのができなくなり、とても悲しかったです。夏休みも、毎日家で踊ったり、柔軟したり、できる事はできる限りやりました。そして、夏休みが終わり、彩羽祭が延期になることを知りました。私は9月13日から始まった部活動を一生懸命に頑張りました。

部活動が始まってからは、とても忙しく、とても大変でした。私は周りとのタイミングの差や、カウントの間違い、位置が覚えられないなど、様々な悩みが出来てしまい、とても焦りました。家までフラフラしながら帰り、夕飯を食べてまた練習という、大変ですが、楽しく充実した彩羽祭までの2週間でした。

部活動が始まってからは、とても忙しく、とても大変でした。私は周りとのタイミングの差や、カウントの間違い、位置が覚えられないなど、様々な悩みが出来てしまい、とても焦りました。家までフラフラしながら帰り、夕飯を食べてまた練習という、大変ですが、楽しく充実した彩羽祭までの2週間でした。

そして彩羽祭当日、新体操部は10時からの公演でしたが、朝7時50分に学校へ行き、着替えや準備をしました。体を動かしたり、柔軟をしたりしていた時、私はとても緊張してしまいましたが、友達が笑わせてくれてとてもありがたかったです。

本番が始まり、あっという間に終わってしまいました。ですが、とても楽しく、今までの練習の成果を出すことができました。公演の後は、先輩方や同輩、後輩と一緒に写真を撮りました。とても嬉しかったです。

来年は、中学3年生となり、クラスごとの展示になります。不安はありますが、とても楽しみです。来年も新体操部公演とクラス展示を頑張りたいです。

彩羽祭 受賞者・受賞生徒のご紹介

※中学2年生が関係する賞のみご紹介いたします。

缶バッジ最優秀賞	H・Kさん	
ポスター優秀賞	Y・Kさん	Y・Eさん
公演部門	最優秀賞：吹奏楽部	優秀賞：合唱部
装飾部門	最優秀賞：科学部	団体装飾賞 科学部、パソコン同好会、美術部
	特別賞：書道部	
展示部門	最優秀賞：科学部	部活団体優秀賞：美術部
校長特別賞	弦楽合奏部	



おめでとうございます！

📄 「光の手紙」を制作しました！

洗足学園では、学園に通うすべての人たちに、芸術あふれる環境の中で豊かな時間を過ごしてほしいとの思いから、“アートプロジェクト”に取り組んでいます。その一環として、中学2年生では、10月5日(火)5限の「謙愛の時間」に、『光の手紙』と題したアート作品を制作しました。この日は、「文字とことばのデザインユニット“二歩”」の西村祐貴さんと星功基さんのお二人を講師にお招きし、『光の手紙』の作り方を教えていただきました。『光の手紙』とは、2枚のカードを重ねて光にかざすと2枚目に隠れていたことばが透けて見え、1枚目に書かれたことばやイラストと一体となって、1つのメッセージが完成するしくみになっています。生徒たちは夢中になってアイデアを考え、形にしていました。生徒たちが制作した『光の手紙』の一部は、現在、図書室前のガラス窓に展示され、通りかかる人々を温かい気持ちにしてくれています。

